

25. 視覚障害者の地域支援の充実を目指して

～スマートフォンサポーター講習会の実施～

自立支援局 第一自立訓練部 視覚機能訓練課 荒木俊晴 小山奈美 谷映志 小坂瑞穂
山田裕基 田淵俊樹 中村咲子 関口弘一 小原有賀 一居伸幸 高平千世 鈴木愛子

【はじめに】

視覚機能訓練課では、平成 26 年度からの組織目標である「高齢及び在宅視覚障害者に対する支援の充実」に向け、訪問訓練のデータを集積・分析してきた。その結果、平成 26 年度～平成 29 年度（対象者：22 名）と平成 30 年度～令和 4 年 10 月末（対象者：21 名）を比較すると、スマートフォン訓練の希望者が、2 件から 13 件とニーズが急増していることが確認された。

スマートフォンは日常生活において、緊急時を含む連絡や情報収集に大きな役割を果たしており、使用できないことで起こる支障が大きいことから、対応には緊急性が求められる。その一方で、視覚障害者向けの画面読み上げ機能が特徴的であることから、周囲の人が操作するのは難しく、地域においては操作方法を学べる場や機会が限られている。この状況を踏まえ、当課では、身近にスマートフォンの音声操作について説明できる支援者を育成することを目的として、「視覚障害者スマートフォンサポーター講習会」を実施したため、その取り組みについて報告する。

【講習会実施までの流れ】

利用者・利用相談者及び支援機関等から聴き取りを行い、支援を必要とする視覚障害者の人数や状況、地域の支援体制等について確認した。その後、ボランティアなどを統括する社会福祉協議会に働きかけ、講習会の周知、参加者の取りまとめ、会場準備など事務局として中心的な役割を担ってもらい、当センター職員が講師となる形で実施した。

【実施結果】

- 1 実施した回数：埼玉県、東京都の 2 市町村にて延べ 3 回（令和 3 年 11 月～令和 4 年 10 月）
- 2 対象者：地域ボランティア、社会福祉協議会・支援機関・市役所職員
- 3 実施時間：1 回あたり約 2 時間
- 4 実施内容：画面読み上げ機能を使用した基本操作（項目の選択、決定等）及び各種アプリの操作、視覚障害者向けの各種設定、視覚障害者に対する支援のポイント
- 5 サポートの仕組みづくり：受講した参加者は事務局である社会福祉協議会に登録し、視覚障害者から支援の依頼があった際に、事務局がサポーターとのマッチングを行い、支援に介入する仕組みとした。また、事務局が視覚障害者・サポーター数の把握や調整を行うこととした。

【まとめ】

社会福祉協議会を中心に講習会を計画したことで、各市町村を主体とする支援体制の構築につながった。今後の展開としては、過去に参加した受講生に次回講習会のアシスタントを依頼し、最終的に講師となって、各地域の中で講習会が継続的に開催される仕組みづくりを想定している。

一方、地域によっては社会福祉協議会の協力が難しい場合もある。各地域において、講習会が継続されていくためには、中心となる機関が必須であるため、各市町村の状況に応じた調整をしていきたい。引き続き、「地域の中でつながる支援」の構築に向け、講習会を普及させていく。